

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	遊園地（職員）	来客数の動き	・当施設で初めてのイベント実施、春休みやゴールデンウィーク等の繁忙期に入り、天候の改善や観光需要の増加、イベントやプロモーション強化が重なったため、良くなっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・学生相手に商売をしており、4月の入学に合わせて制服や体操服を販売したが、新学期から2か月ほどたって、追加注文が前年よりかなり多いため、上向いている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・コンビニでは増量セールなどいろいろなキャンペーンがめじろ押しで、その分、売上の的には多少は貢献していると考えている。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月に関しては近隣の店舗が閉店した影響により、若干良くなっているが、景気自体はそれほど変わっていない。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・エアコンの省エネ基準の改定の影響で、先取り需要がある。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・物価上昇に対する懸念からか、燃費の良い電気自動車、軽自動車の新車販売が伸びている。
	○	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・引き続き、ゴールデンウィーク明けも来客数が前年を超えており、客単価も前年超えて推移している。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・余り良くないとみていたが、金額的には前年より良くなっている。自治体発行のプレミアム付商品券の影響があるのかもしれない。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは5連休となり、例年よりも客が多かった。また、連休中の混雑日の料金を前年よりも高めの設定にしたが、完売した。連休中は首都圏からの客が多く、首都圏は景気が良いとみられる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ゴールデンウィークやイベントも多くあったことで、通常よりも1人当たりの消費単価が大幅に上がっている。しかし、法人利用が減少したことで全体的な利用人数が減ったことから、大幅な伸長にはつながらなかった。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3か月前の2月はホテルにとって閑散期のため、2月と比べればかなり売上や販売量は増えている。特に、ゴールデンウィークの5月2日と3日の宿泊は、コンサートイベント等が重なり、1日の宿泊売上が過去最高を記録した。一方、5月の宴会関係は法人需要が非常に弱く、首長選挙も影響したのか、前年同月と比べて10%落ちている。
	○	通信会社（社員）	単価の動き	・テレビサービスが引き続き好調で、客単価自体が緩やかな上昇傾向にある。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・2027年の規制の変更で家電業界ではエアコン、照明器具の受注は増えているが、低価格商材の購入が多い。景気に関するとは考えにくい。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・衣料品などの動きに鈍さはあるものの、地域発行クーポンの成果もあり、家電等の生活関連や食品関係等、売上が好調な部門もある。良くなったとも悪くなったともいえない。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・以前より買い回り頻度が低下している傾向は変わらず、セール日にまとめて購入する客が多い。
	□	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・原油調達の影響で相殺されてしまっている。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・自宅でも値上がりの会話が多くなっているが、世間でも同様の傾向ではないかと考える。売上については横ばいだが、前年比100%をまだ超えない。	
□	タクシー（経営者）	それ以外	・中東情勢の影響により、燃料や資材の高騰が続き、買い控えが見受けられる。	
□	通信会社（社員）	販売量の動き	・季節性がある商材にも伸びはなく、1番の閑散期を迎えるため、やや悪い状態で変わらない。	

	□	観光名所（職員）	来客数の動き	・相変わらず、国内観光客は減少傾向である。その分をアジア圏のインバウンドがカバーしている状況は変わらない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・現状の予約状況は順調なものの、前月と変わらず平日に関しては、プレー代、食事代共に、客は金額にシビアである。
	□	その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間は、ファミリーや若者層を中心に客足も好調でにぎわっていたものの、それ以降の集客は少し落ち込んでいる。しかし、全体的にみると前年より売上は増えている。
	▲	商店街（代表者）	単価の動き	・ゴールデンウィークも期待どおりの集客とはならず、休み明けからは客足も落ち込んでいる。
	▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・特選ブランド、宝飾、化粧品は堅調に前年をクリアしたものの、衣料品、家庭用品、食品は売上が伸び悩んでいる。中東情勢の影響による原油不安と値上げによる物価高で、客の財布のひもは固くなっている。
	▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・トイレットペーパーやゴミ袋は売れているものの、米価の反動減もあり低調である。
	▲	スーパー（経営者）	販売量の動き	・前年比では売上は7%減少、来客数は16%減少と、前月に引き続きどちらも落ちている。3月から1件新たな納品が増え、5月から更にもう1件増えたが、売上は落ちている。資材も値上げの通知が来ており、物価高を痛感している。プレミアム付商品券の発行で、来客数が増えるのみでみただけに、残念である。
	▲	スーパー（企画担当）	それ以外	・中東情勢の影響による業務用物資のコストが増加しており、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・夕方以降の来客数の伸びが悪く、19時から是一段と来客数が減っている。
	▲	コンビニ（総務担当）	販売量の動き	・食品や生活必需品の値上げが続くなか、消費者の節約意識が高まり、その影響により来店頻度や購買点数の減少がみられる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・物価高の影響により、今月も車両販売は低迷している。そのマイナス部分をサービス部門でカバーしてきたが、エンジンオイルを始めとして、全ての油脂関係、冷却水等、整備に必要な物が全く仕入れられないため、非常に厳しい状況である。
	▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・とどまることを知らない物価高騰と中東情勢の影響もあり、客足が伸びず、消費は控え気味である。
	▲	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・急激な原油価格の高騰とそれに伴う物価高により、旅行への消費が下降気味である。ゴールデンウィークも日帰り又は予定なしが多く、期待外れに終わっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・昼間も人影はまばらなので、これ以上悪くはないはずである。期待に届いてほしいところである。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・止まらない物価高の影響により悪くなっている。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて売上は下がっている。税金の支払で出費の多い月のため、節約志向かもしれないが、ついで買いをする客が減っている。
	×	その他専門店 [酒]（店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響により、以前からの物価高が更に押し上げられ、また、身の回りの物資がなくなるのではないかと、皆不安になっているため、飲食店や平日の客の動きは非常に良くない。5月の2週目頃から、特にこうした雰囲気覆われている。土日は多少客が動いているが、外食は非常に波が激しくなっており、悪くなっている。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	*	*	*
	○	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・見積り依頼が増えてきている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・引き続き、特注受注対応で多忙である。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注に関しては、明るい兆しがみえてきたようである。
	□	輸送業（経営者）	競争相手の様子	・荷主の様変わりがやや目立っている。

	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特需的に受注があるものの、原材料や部品の入荷遅延や価格高騰、供給停止になることがあり、利益が残らない状況である。
	▲	金融業（調査担当）	競争相手の様子	・製造業は中東情勢の緊迫化に伴う受注面への大きな影響はみられないが、サプライチェーン上の供給不安やマインド悪化がみられる。非製造業は物価高に伴う消費者の節約意識の高まりや中東情勢による住宅資材等の供給不安もあり、業況感が悪化している。
	×	その他製造業 〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・催事をしても集客がどんどん悪くなっている。また、うまく集客できた催事でも、購入する客は大幅に減少している。都会の小売店の中にはインバウンド需要を受けて好調な店舗もあるが、相対的には低迷が続いている。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所管内令和8年4月の有効求人倍率は1.16倍となり、前年同月比0.04ポイントの下降となった。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは24か月連続である。
	□	人材派遣会社 （営業担当）	それ以外	・中東情勢の影響かゴミ袋不足の話が多く、身近に触れる機会が増えているため、景気は上向かない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・経済環境の厳しさから、採用に慎重な姿勢が続いている。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・建設資材の高騰が続き、中規模以下の事業所では工事の受注が減少しており、従業員の一部を整理するという話も聞く。中長期的に先行きを懸念した停滞感が払拭できない。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が毎月増加しており、2月からの比較では、500人程度増加している。
	×	—	—	—